



一般社団法人
経済同友会インターンシップ推進協会

協会概要

一般社団法人経済同友会インターンシップ推進協会とは

経済同友会インターンシップ推進協会は、望ましい産学連携教育を実践する観点から、大学・高専の正課（授業）で教育効果の高い「経済同友会インターンシップ」を主催している一般社団法人です。当協会の趣旨に賛同する経済同友会会員企業の有志と大学・高専が会員となっています。

実習にあたり、会員の意向をベースに適切なマッチングを行って学生の成長を後押ししています。また、実習に関する成果報告会や会員による実務者交流会を開催することで、会員相互の成果の共有と連携を行い、次世代人材の育成に寄与しています。

名称

一般社団法人経済同友会インターンシップ推進協会

設立

2019年4月1日

所在地

〒100-0005

東京都千代田区丸の内1-4-6 日本工業倶楽部別館5階 経済同友会事務局内

E-mail : kyokai@doyukai-internship.or.jp

代表者

代表理事 横尾 敬介

目的と事業内容

望ましい産学連携教育の実践の観点から教育効果の高いインターンシップを推進することにより、次世代人材の育成に寄与し、もってわが国の経済社会の発展に資することを目的として、以下に掲げる事業を実施。

- (1) 学生と企業を適切にマッチングするための情報の収集及び提供
- (2) 実習生OB・OGの組織化と現役実習生・企業・教職員との交流促進
- (3) インターンシップの推進、調整、実態把握及び連携協力

入会金

20万円

年会費

正会員、準会員とも4月1日現在の会員に年会費をご負担いただきます。4月2日以降のご入会の場合、初年度は入会金のみ申し受けます。

正会員 40万円

※大学・高専は派遣学生数6人まで同額。7人目から別途1人2万円追加。

準会員 5万円

会員一覧

(敬称略)

正会員(企業) 29社



アスクル



ADEKA



イオン



キッコーマン



キッツ



久慈設計



ケマーズ



コニカミノルタ



小松製作所



シグマクシス



住友林業



双日



損害保険ジャパン



第一生命保険



武田薬品工業



デュポン



凸版印刷



日本信号



日本航空



日本たばこ産業



野村ホールディングス



東日本旅客鉄道



みずほ証券



三井住友銀行



三井不動産



三菱ケミカル



森トラスト



ユー・エム・アイ



リコー

正会員(大学・高等専門学校) 18校・1 機構



小樽商科大学



北海道大学



東北大学



埼玉大学



新潟大学



お茶の水女子大学



九州大学



琉球大学



岩手県立大学



山陽小野田市立山口東京理科大学



高知工科大学



工学院大学



上智大学



昭和女子大学



聖心女子大学



東洋大学



龍谷大学



京都橘大学



国立高等専門学校機構

準会員



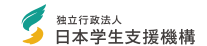
岡三証券



シーエーシー



全日本空輸



日本学生支援機構



ソマール

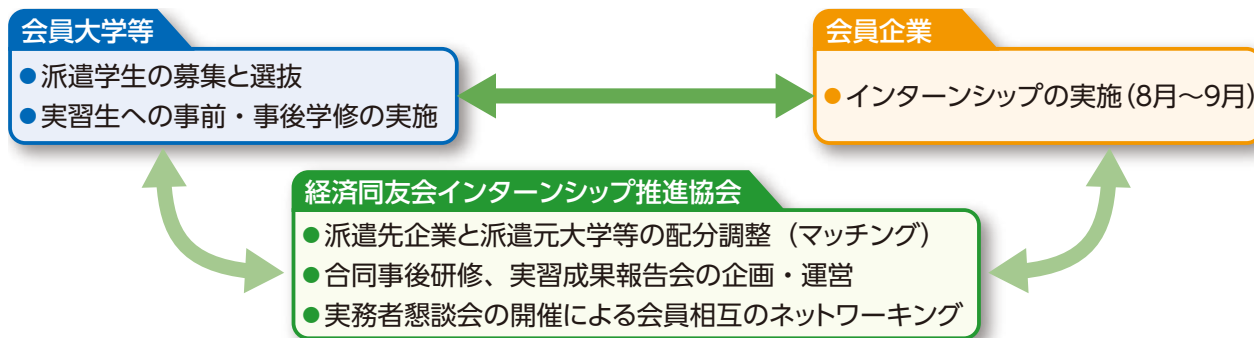


津田塾大学

賛助会員

インターンシップの概要

経済同友会インターンシップ推進協会は、次世代人材の育成に寄与しわが国の経済社会の発展に資することを目的として、望ましい産学連携教育の実践の観点から、教育効果の高いインターンシップを推進しています。



特徴

1 対象は大学1・2年生／高専本科4年生・専攻科1年生

早い時期から学生が実社会で学び、気づきを得ることでキャリア意識を涵養できます。早期の実社会体験で得た様々な気づきを以後の学修やキャリア形成に活かします。

2 単位認定を行い、正課教育の一環として位置づけ

大学・高専では、教員もプログラム内容に関与する正課授業として位置づけられます。大学・高専は公募し、意欲ある学生を選抜して実習先へ派遣します。実習生への事前・事後学修を含めた教育指導により学生の成長を促します。

3 実習期間はおおむね2週間以上

おおむね2週間以上の実習期間が確保され、望ましい産学連携による教育効果の高いインターンシップが展開されています。(事前・事後学修を含む場合あり)

4 日本を代表する有力企業中心に学生を受け入れ交通費・宿泊費を支給

学生の経済的負担に配慮し、実習先までの交通費と実習期間中の宿泊費は受け入れ企業が負担します。

正会員企業・大学等数と実習生数の推移 (実績値)

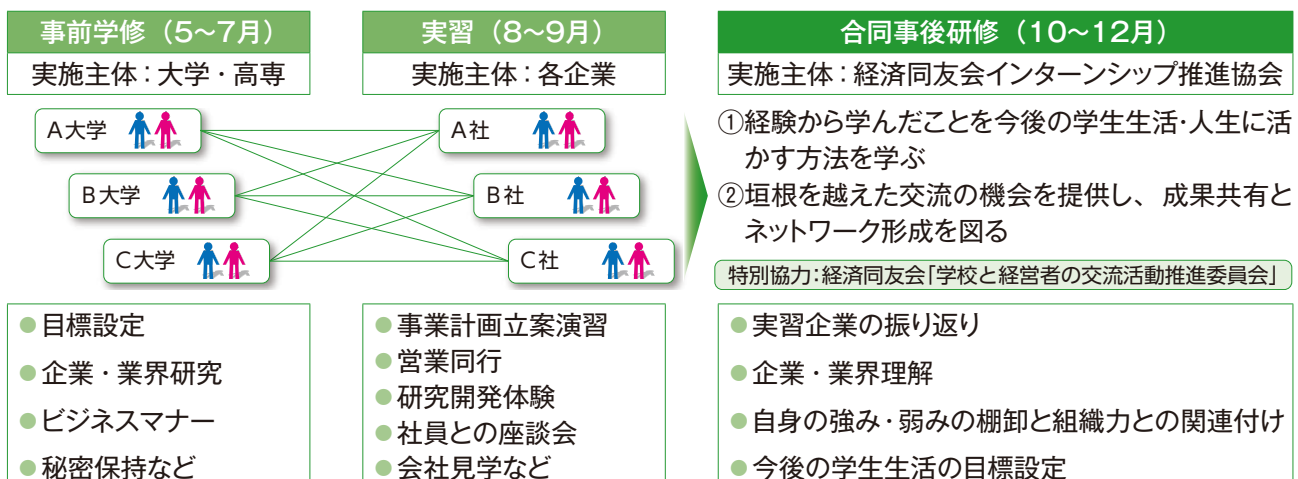
	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
企業	16社	23社	28社	24社	24社	23社
大学・高専	11校	13校	15校	14校	18校	19校
学生	67人	121人	138人	123人	61人	111人

※2016年度～2018年度は公益社団法人経済同友会が実施。

インターンシップ実施の流れ

※各企業、大学、高専の事情により詳細は異なる

	企業	大学・高専	学生
12月		次年度の夏期休業期間調査	
1月	【事務局主催】実務者懇談会（方針説明）		
2月	次年度インターンシップの参加意向調査		
3月	企業及び大学・高専のマッチング枠確定		
4月	大学・高専からマッチング企業へ コンタクト開始	学生募集・告知	応募・選考
5月	インターンシップ プログラムの詳細決定 →実習に関する事前課題など を大学・高専へ提示	学生決定 実習生名簿を受入企業へ提出	
6月	→実習プログラムを事務局へ 提出	事前学修 インターンシップ参加の意義、目標設定、企業・業界研究、ビジネス マナー	
7月	企業と大学・高専の覚書の取り交わし		
8月	企業でのインターンシップ実習に学生が参加 大学・高専の教職員は、派遣先企業への訪問、成果報告会へ参加		
9月	学内実習報告会		
10月			【事務局主催】合同事後研修
11月	【事務局主催】合同事後研修		【事務局主催】合同事後研修
12月			【事務局主催】合同事後研修
	【事務局主催】実習成果報告会		



学生の体験談

インターンシップへの挑戦を通して己を知る

実習先 住友林業株式会社(2021年度)

大学名 北海道大学農学部
生物機能化学科3年 鈴木 優吾 さん

私が参加した住友林業株式会社様のインターンシップでは、営業体験・講義・新規事業提案・企業見学など様々なプログラムが用意されていました。沢山の学びがある中で、1番の学びは自分自身と向き合えたことであると考えます。企業の方々や他大学の学生との交流を通して、自分の良さや弱みを客観的に評価することができました。

リーダーシップとは何らかの役割を遂行すること、大切なのは取り繕うことなく本音で勝負すること。これは、特に印象に残っている言葉です。参加者は皆、輝いて見え、自分の不甲斐なさに悔しさを感じた場面もありました。しかし、自分は自分であり、向き合い続けたいといけなく考えています。自分らしさを大切に、替えの利かない人材に成長していきたいと考えています。

最後に、コロナ禍で厳しい状況の中、充実したプログラムを組んでくださった企業の方々、このような機会を用意してくださった関係者の方々へ心よりお礼申し上げます。

挑戦することはすべての始まり

実習先 三井不動産株式会社(2021年度)

大学名 岩手県立大学ソフトウェア情報学部
ソフトウェア情報学科3年 宗 拓久斗 さん

私は、岩手県内で地域創造に関わる課外活動に取り組んでいます。特に街づくりに関心があるため、より広い知見を得たいと考え、三井不動産グループ様のコースに参加しました。

インターンシップはオンラインで行われましたが、三井不動産様をはじめグループ各社で活躍されている方々から多くの学びを得ることができました。また、企業・業界を知ることだけでなく課題に取り組むことで、自分の得意とすること、自分に不足している部分を知ることができました。

大学に戻ってからは、大学のイベントを企画し、運営するリーダーを担うことができました。その過程で問題発見能力の未熟さを痛感しましたが、インターンシップで学んだ周りのメンバーの視点を生かして自らの弱点を補うことや、強みと認識した問題解決能力を発揮して、成功に導くことができました。

今でもインターンシップで得た『未来は自ら構想し、挑み続けて変えていくもの』に日々取り組んでいます。

最後に、経済同友会インターンシップへの参加に際し、多くの方々からご支援を賜りましたことに感謝申し上げます。

社会人とのコミュニケーションから得た学び

実習先 日本信号株式会社(2021年度)

大学名 お茶の水女子大学理学部
情報科学科3年 森 千紗 さん

私は大学2年生という早い段階で働くことに触れて将来のキャリアについて考えるきっかけにするために、経済同友会インターンシップに参加しました。また私は将来ものづくりに関わりたいと考えているため、「安全と信頼」のものづくりが学べる日本信号様を志望しました。

実習では、グループで社会や交通に関する課題について話し合い、発表を行いました。実習の中で最も印象的だったことは、社員の方と直接お話しする機会が多く設けられていたことです。座談会で技術者の方からものづくりをする上で大事にしていることや社会人として生きていくために必要なスキルについて学んだり、社員の方との面談で自分のプレゼンに対してのアドバイスを頂いたりしました。社会人の方々と密なコミュニケーションをとり、ものづくりに必要な姿勢を学べたことは、日常生活や大学の授業では体験できない貴重な経験でした。

日本信号様での実習を通して得た非常に充実した経験を今後の人生に活かし、励んで参りたいと思います。コロナ禍の中、今回の経済同友会インターンシップ参加に際し、充実したプログラムをご提供いただいたこと、心より感謝申し上げます。

大学生活において最も刺激的な3週間

実習先 みずほ証券(2019年度参加/現勤務先)

大学名 高知工科大学経済・マネジメント学群
(2021年3月卒業) 伊藤 聖也 さん

私は、経済学を学んでいたこともあり漠然と金融業界に興味を持っており、なかでも証券会社がどのようなビジネスを行っているのかを知りたいと思い応募しました。

インターンシップを通じて、特に印象に残ったのは「他者と協働することが仕事の本質である」ということです。

グループワークにて、メンバーの意見がまとまらないまま発表を行い、結果相手に意図が伝わらなかったという経験をしました。グループ内でよりコミュニケーションを密にとり、協力できていればそのような結果にはならなかったと思います。その後の反省会にて社員の方から、コミュニケーションの重要性について教えていただきました。この経験からその後の大学生活では人との繋がりや関係構築を意識して行動しました。

インターンシップを通じて証券業務やマーケットの魅力を感じた私は、大学に戻ってからも日経新聞を読むことを習慣とし、教授や教育講師の方と討論しました。ニュースは過去から未来へと繋がっていること、地政学などの世の中のあらゆる事象がマーケットに影響していることを知り、視野を広く持つことの重要性を学びました。

私は縁あってみずほ証券に入社しました。振り返ると経済同友会インターンシップは、自身の将来を決めるようなとても貴重な経験でした。学生の皆さまにはぜひインターンシップに参加していただき、大きな学びを得ていただきたいと思っています。

企業の評価

産学連携を通じて学生にとって望ましい
キャリア選択を

アスクル株式会社
人事総務本部人材戦略採用

大木 祐哉 様

仕事場とくらしと地球の明日に「うれしい」を届け続ける。
これがアスクルのパーパス（存在意義）です。

2021年度におきましては、上記パーパスの実現並びに、産学連携による次世代人材の育成、低学年からのキャリア教育の重要性に強く共感し、経済同友会インターンシップに初参画いたしました。

5日間のインターンシップには、学生の皆さんそれぞれが高い目的意識を持ってご参加いただきました。その結果、短期間でありながら、学生ならではのアイデアや柔軟な発想力で、我々の想像を超えるアウトプットをしていただくことができました。

また、インターンシップ終了後におきましても、派遣いただいた大学様と継続的な繋がりを持たせていただき、現在に至るまで、定期的に学生のキャリア教育のお取り組みをご一緒させていただいております。

今後は、さらなる産学連携強化に努めていく所存でございますので、皆様との協業の中で、学生に、社会に「うれしい」を届けることができる選択を考え続けたいと思います。

自分で作る未来への一歩を後押しし、学生
とともに成長へ

ケマーズ株式会社
管理部HRBP

越邑 由香子 様

未知の力を持つ大学1・2年生へ提供するプログラムの作成と実施は、部門横断的な協働と工夫を求められ、社員の力が試される機会となりました。その成果は、毎日に自信をつけ意欲に満ちていく学生の表情や発言に現れ、同時に社員にとっても他者の成長を目の当たりにでき、大いに刺激や充実感を得られました。

学生の皆さんにとっては、キャリア形成に向け早い段階で気づきを得ることは、たとえば専攻や履修科目などで近い将来やるべきことへと結びつきました。そして「語学力そのものよりチャレンジ精神やコミュニケーション能力が大切」という認識や「働くことをリアルに想像できた」などの声となり、自ら考え、他大学との学生と学び合った経験はきっと未来へ活かされることと思います。

私共、化学の会社ケマーズの基盤は「Courageous Chemistry™」です。今年も学生の皆さんがキャリアへの窓を開け未来を描きたくなるようサポートし、共に成長することを目指して取り組んで参ります。

大学の評価

日本を代表する企業で活躍する社会人に
学ぶ 低年次の貴重な経験

国立大学法人琉球大学
キャリア教育センター センター長

本村 真 様

日本の南端で学ぶ本学の学生にとって、自然環境の多様性から学ぶ機会がありますが、様々な形態の企業様による経済活動を含めた社会の多様性に触れる機会は十分とはいえません。そのような中、1・2年生対象の本事業は、自分らしく活躍する場（エリアや業種等）についての選択肢を拡げ、学生生活を通して自分をどう成長させればよいのか、実体験を通して気づける貴重な機会です。参加学生からは、「事前に情報収集をしていたが、参加しないと分からなかった雰囲気等を体験できた」「コミュニケーション能力の必要性を実感した」「今後の学生生活で挑戦したいことが明確になった」などの声が寄せられ、本事業の意義を強く実感しています。

大学で行っているキャリア教育の更なる充実を、経済同友会インターンシップ推進協会様および参加企業様のご尽力で実現させて頂いていること、大変感謝しております。大学としても、関係する皆さま方が学生との交流を通してポジティブな刺激を得られるようWin-Winの関係を目指し、事前・事後の研修では学生の「主体的に挑戦する姿勢」を育みながら、さらに力をいれて取り組んでまいります。

経済同友会
インターンシップの意義は何か

東洋大学社会学部社会心理学科
准教授

榊原 圭子 様

経済同友会インターンシップの最大の意義は、学生が自らの課題や大学生活の過ごし方を考える機会を得られることであると思います。学生は、派遣先企業で仕事に真摯に向き合う大人に出会い、働くことの意味や想いを感じ、他大学の学生や企業の方との議論を通して、自分の能力や課題を発見します。そしてこれからの大学生活をどう過ごすかを考えるようになります。

このインターンシップの対象者が1、2年生であることにも大きな意味があります。参加した学生には卒業までに2年以上の時間があり、インターンシップで得た気づきをもとに多くのことにチャレンジすることが出来るからです。

インターンシップは就職活動の一環として捉えられがちですが、本来の目的は学生の気づきを促し、その後の学びに活かすものです。経済同友会インターンシップはこの目的に合致し、学生の成長を大きく促すきわめて貴重な機会です。

実施に関するFAQ

FAQ【大学／高専】

Q1 派遣する際に特定の企業を指定することはできますか？

A 派遣先企業の指定はできません。
当協会では、特定の学校の学生が特定の企業に偏らないよう留意してマッチングを行っています。

Q2 6名を超えて学生を派遣する場合、人数の指定は可能ですか？

A ご希望人数をお示しいただくことは可能ですが、必ずしもご希望の人数枠分をマッチングできるわけではありません。

Q3 インターンシップに参加するにあたり、単位認定を必ず行う必要がありますか？

A 経済同友会インターンシップは、正課教育の一環として行っているため、実習生に対しては、各大学・高専の基準に則り、単位を認定していただくことが必須です。なお、単位数の指定はありません。

Q4 学生の派遣に際し、各大学・高専の学年暦や夏休みなどを考慮していただけますか？

A 事前に夏期休業期間を確認させていただき、派遣先企業の日程と調整してマッチングを行っています。

Q5 大学・高専が実施する事前・事後学修について、日数や内容の条件・制約はありますか？

A 大学・高専で工夫を凝らして自由に実施していただいていますので、条件や制約等はありません。

FAQ【企業】

Q1 学生の受け入れに際し、特定の学校を指定することはできますか？

A 当協会は、特定の企業に特定の学校の学生が偏らないよう留意して、マッチングを行っています。

Q2 一定水準以上の知識・スキル（語学力・ITスキル・特定の選考分野に関する知識など）を有する学生に限って受け入れることは可能ですか？

A 可能です。ただし、大学1・2年生又は高専本科4年生・専攻科1年生を対象とするプログラムであることにご留意いただき、過度に高度な知識・スキルを求めることはお控えください。

Q3 実習生に報酬を支払うことはできますか？

A 単なるアルバイトではなく、教育プログラムとしてふさわしい内容を備えている場合、報酬を支払うことは可能です。ただし、有償のインターンシップを認めていない大学・高専もありますので、派遣元の大学・高専に個別にご相談ください。

Q4 実習の一部または全部について、自社が独自に行うインターンシップと合同で実施することはできますか？

A 実施できます。ただし、所定の実習期間（概ね2週間以上）が確保できているかという点と、正課科目で単位が認定される教育プログラムとして相応しい内容を備えているかという点にご留意ください。

Q5 このインターンシップは正課（授業）として扱われるとのことですが、現場での実務体験に加え、理論など、知識習得型の座学プログラムを盛り込む必要はありますか？

A 企業の実務をリアルに経験すること自体に教育効果があると考えていますので、座学プログラムは必須ではありません。ただし、学生を実務に従事させるうえで、知識の習得が必要と判断される場合は、知識習得型の座学プログラムを盛り込むことに差し支えありません。

入会のご案内

経済同友会インターンシップの趣旨に賛同され、ご入会を検討される企業・大学の方に

- 当協会には、企業・大学・高専いずれも法人会員として入会いただいております。
 - 企業のご入会は、公益社団法人経済同友会会員の所属企業に限らせていただきます。
 - 入会金20万円
 - 年会費40万円
- 企業は、一律40万円です。大学・高専は、40万円に学生6人分の派遣費を含んでおり、7人目からは、別途、1人2万円をいただきます。

■ 企業の方

経済同友会インターンシップは、学生の成長のために教育として実施する大学・高専の正課（授業）であり、採用とは関係ありません。こうした趣旨をご理解のうえ、研修プログラム内容などについて実習生派遣校の教職員との連携・協力・調整を行うとともに、学生の宿泊費・交通費などの費用をご負担くださり、おおむね2週間以上の期間、学生を受け入れていただける企業にご入会をお願いしております。

■ 大学の方

経済同友会インターンシップは、大学・高専の正課（授業）として単位を付与して実施するもので、採用とは関係ありません。望ましい産学連携教育を実践する観点から、学生の受け入れのための宿泊費・交通費などの費用については企業にご負担いただいております、大学・学生の負担はありません。

こうした趣旨をご理解のうえ、自ら参加を希望する意欲・意識の高い学生を選考して、事前・事後の学修を実施、おおむね2週間以上の期間にわたる研修プログラムなどについて、派遣先企業との連携・協力・調整を十分に行っていただける大学にご入会をお願いしております。

入会のメリット

- 経済同友会がバックアップをするインターンシップ事業に参画いただくことで、「次世代人材の育成に積極的に取り組む企業」として、企業のイメージ向上につながります。
- 比較的長期の実習を行うことで、企業や業界に対する学生の理解、認知度向上が得られるとともに、将来の採用につながる効果も期待できます。
- 学生のピュアな感覚、斬新なアイデアに接することにより、指導を担当する若手社員の育成にも寄与します。
- 会員相互の交流機会により、企業の人事・採用担当者と大学・高専のキャリア教育担当者のネットワーク構築につながります。
- キャリア教育を目的とした経済同友会インターンシッププログラムは、経済同友会の信頼性もあり、会員大学・高専から高い支持を得ています。

「経済同友会インターンシップ」はSDGsの達成に貢献します。



- インターンシップにかかる交通費と宿泊費を企業にご負担いただくことにより、学生が経済的事情に左右されず就業体験の機会を確保することができます。
- オンライン実習など、ICTを積極的に活用することにより、コロナ禍でも学修機会の確保に努めています。

役員紹介



会長

櫻田 謙悟

経済同友会
代表幹事

「次世代人材教育のために望ましい 産学連携教育の推進を」

グローバル化の進展のなか激動する経済社会に巣立っていく学生たちにとって、キャリア教育の必要性は、これまでになく高まっています。

一般社団法人経済同友会インターンシップ推進協会は、こうしたニーズを背景に、望ましい産学連携によって学生の成長を支援するために設立されました。

当協会のインターンシップは、意欲ある学生たちが、日本を代表する有力企業を中心に実社会で学ぶことで、大きな成長を促すものです。

大学・高専は正課として単位を付与し、企業は真摯な現場指導とともに費用を負担するなど、産学の望ましい連携を実現しています。

当協会は、このように次世代人材の育成を通じて広く社会に貢献して参りますので、価値観を共有する多くの皆様にご入会を賜りたく、よろしくお願い申し上げます。



代表理事

横尾 敬介

産業革新投資機構
代表取締役社長 CEO

「企業という実社会で学ぶ リアリティが学生を成長させる」

これからの混沌とした時代を生きていく学生たちにとって、教育効果の高いインターンシップは一層重要性を増しており、企業という実社会で学ぶリアリティは、教育機関が提供できない貴重な体験です。

企業では、さまざまな価値観を持つ人々がその能力に応じて役割を担い、協力し合うことで、全体の成果に結びつけています。

当協会のインターンシップは、意識の高い学生たちが早い時期からこうした人々に学ぶ機会を提供しており、多くの“気づき”を得ることができます。

教職員の皆様には、貴重で得がたい体験を経て、キャリア・デザインを描きながら努力する学生たちの成長支援をお願いいたします。

当協会は、学生時代にしっかり学び、卒業後に社会で活躍する若者たちをサポートして参りますので、志を同じくする皆様のご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。

専務理事・事務局長



藤巻 正志

元経済同友会
執行役

理事



天羽 稔

TGA 取締役会長
元デュボン 名誉会長



大久保 伸一

凸版印刷
代表取締役副社長
執行役員

理事



尾崎 由紀子

野村ホールディングス
執行役員



高祖 敏明

聖心女子大学 学長
上智大学 名誉教授



矢口 悦子

東洋大学
学長

監事



小野 傑

西村あさひ法律事務所
オブカウンセル



斎藤 敏一

ルネサンス
代表取締役会長



一般社団法人

経済同友会インターンシップ推進協会

〒100-0005

東京都千代田区丸の内1-4-6 日本工業倶楽部別館5階 経済同友会事務局内

E-mail : kyokai@doyukai-internship.or.jp

<https://www.doyukai-internship.or.jp>



2022.11 作成